

敬語と高校生

— ある高校での調査から —

丸山 和香子

はじめに

ことばは伝達的手段であり、思想の表現であり、通じあいを求める人間の行動である。人間の行動は複雑で、種々な要素を含んでいる。その要素は社会的関係や心理的關係を含み、それがことばとなって人間関係を作っていく。(注1)。人間関係を作ることばは、常に場面によることばの使いわけがおこなわれており、日本語において、その使いわけが最も顕著にあらわれるのが、敬語表現であろう。

敬語の分類は、従来多くの説が立てられているが、ここでは教育の場における分類にしたがっておく。ふつう、尊敬語、謙譲語、ていねい語の3つに分けているが、ていねい語は前2つとはやや異った性格をもっている。

元来、敬語は身分の上下関係にもとづくものであったが、最近では、対等関係にある人間相互尊重の表現として、とらえている面が目立ってきたし、また、実生活における行動と一体とならなければ、ことばを通して好ましい人間関係を作っていくことはむずかしいという認識が一般化している。(注2)

上下の人間関係から、横の人間関係を重視する社会へと動きつつある社会の変動にともなって、敬語表現も変化が生じているが、まだ安定した1つの規準が確立されているとはいえない。(注3)。

1人の人間が敬語表現を身につけていく段階はどうだろうか。2歳半ごろから言葉の使い方が複雑になり、「敬語体」すなわち、ていねいな表現があらわれるという。親子、兄弟などで構成された家庭で、母親を中心とした言語環境の中で育つのが普通であろう。幼稚園時代もまた、教師の作り出す言語環境の中で模倣を主としたくり返して敬語表現を身につけていく。しかし、小学校に入り4年生ぐらいになると、敬語が自分の社会生活にとって、いかに大切であるかという自覚も出てくるし、学年を追って教材の中に、敬語を意識させるものが出てくる。中学校に入ると、それまで断片的に理解してきたものが整理され、いろいろの場面に応じて、その知識を使いこなすことができるようになる。中学時代は敬語能力が成長するのに反して、生徒仲間で

の敬語の乱れが始まる時期でもある。高校になってもこの傾向は続き、心理的には敬語の使われる人間関係に反発を感じる時期でもある。一方、場面による使い分けがますますうまくなり、使うべきところには、正しい敬語が使える力については来るようだ。しかし、家庭や学校にくらべ、実社会の人間関係は複雑であり、場面に応じた敬語を使うことは、なかなかむずかしい。まだまだ学ぶべきことが残されているのが高校時代でもある。この未完成ではあるが、学校という集団の最終段階にいる高校生が、敬語についてどの程度の知識と応用力をもっているか、また、現在動きつつあるいくつかの敬語表現をどのように受けとめているかという点を、アンケート調査によりさぐってみた。

今回、特に着目したのは、謙譲表現であるものが、ていねい語、あるいは尊敬語として認識され、使われているのではないかといわれている次の6つの表現である。

- (1)おります。 (2)お……いたす。 (3)まいる。 (4)お……する。
(5)いたす。 (6)申す。

被調査者は、都内某ミッション系私立高等学校の2学年の生徒全員、女子のみだが約200名である。プリント3枚にもなる調査事項について記述してもらったもので、国語の授業時間をさいて、協力してもらった。

- (1) “あります”は敬語か

まず敬語の知識が、どのくらい身についているかを、国立国語研究所が昭和27.8年に行った調査で用いた文例により調べた。それは次のような文例である。(注4)。

- 1-a あの人は駅へいかれた。
1-b 1つお持ちください。
1-c ここにあります。
1-d これはいただいたものだよ。
1-e 知事のお車はもう駅を出発した。

上の5つの文中に、敬語があればその部分に下線をひいて示してもらった。aでは“いかれた”。bでは“お持ちください”。cでは“あります”。dでは“いただいた”。eでは“お車”に下線がついていれば、それぞれ2点を与え10点満点とした。(cでは“ます”eでは“お”だけでも2点与え

た。)その結果、196名の平均は6.55点であった。なかでも、1-c “ここにあります”には、敬語がないとしたものが、67.5%であり、ていねい語に属する“ます”が、他の尊敬語や謙譲語と同じようには、敬語として認識されていないことを示していた。“ていねい語”は、待遇関係をあらわす語であるが、狭義の敬語からは、はなれているという説の1例を示している。

(2) うまく敬語が使えるか

次に、自分の言語生活をふりかえって、どのように感じているかをみてみよう。

2-a あなたは目上の人やよその人と話をするとき、うまく敬語が使えますか。

うまく使える	4%
大体うまく使える	61%
あまりうまく使えない	24%
うまく使えない	2%
何ともいえない	10%

2-b あなたのおうちでは、家族のかたの間で、敬語を使うことがありますか、それとも家族どうしでは敬語を使いませんか。

使う	2%
ときには使う	35%
使わない	62%
わからない他	2%

2-c 家の中でも年上の人や目上の方は敬語を使わなければならないでしょうか。

使うべきだ	2%
時や場合による	70%
使わなくともよい	27%
わからない	2%

ちなみに、被調査者の家族員数は平均4.34人である。(日本全国平均3.45人、東京平均2.95人—54年度統計局による)

2-d 敬語を使って話すと上品にきこえますし、また相手によっては敬

語を使うのがあたりまえです。そこでだれもが、敬語をさかんに使った方がいいと思いますか、どうですか。

さかんに使った方がいい	6 %
いまのままでいい	22 %
一概にいけない	61 %
この意見はおかしい	7 %
その他	4 %

2-e 敬語を使うとどうしても話が長くなりがちです。しかし世の中はこれからますます忙がしくなっていくと思います。そこで敬語を使うことをどんどん少なくしていった方がいいと思いますが、どうでしょう。

減らした方がいい	2 %
一概にいけない	34 %
いまのままでよい	29 %
この意見はおかしい	32 %
その他	3 %

高校生たちは、自分は大体敬語をうまく使える(61%)と思い、家族の間では使わず(62%)にいるが、時と場合によっては家族の間でも使うべきだ(70%)と思っている。敬語をさかんに使うことがよいとは一概にいけない(61%)とし、多忙になるから敬語をへらすべきだという意見には、おかしい、一概にいけない(2つで66%)という態度をとっている。

(3) 私はお客

日常の言語生活をふりかえってみるまでもなく、最近、テレビ・ラジオ・ダイレクトメール、また街頭や駅でのアナウンスで、今までとちがった表現が使われている。これらのなかから、駅や乗物の中できくアナウンスを例にして、高校生がどのように感じているか、おかしいと思ったときには、どの部分をどのようにかえたらよいかという質問によって、はじめにのべた(1)~(6)の謙讓表現の変化をどの程度の生徒がうけとめているかをしらべた。(注5)

3-aから3-gまで、どれもその文を読んで“わるくない”かを判断させ“おかしい”と思ったときは、その部分を自分でよいと思うように訂正してもらった。

乗客にむけられた駅のアナウンスは、身分の上下関係には関係はない。もっ

ばら一時的な利害関係で結びついた恩恵（利益）を与える側（乗客）と、被恩恵（駅側）という上下関係であり、この2つが、表現の送り手と話の受け手となっているという状況であり、被調査者はお客の立場で話を受けている。

3-a 吉祥寺（地名、駅名）の小川さん、おりましたらホームの事務室までおこしてください。

わるくない	22名	11.3%
-------	-----	-------

おかしい	172名	88.6%
------	------	-------

訂正は当然のことだが、“おりましたら”に集中し、80.0%の生徒が、“いらっしゃいましたら”、“おられましたら”、“おいでになりましたら”となおしている。このごろ、学校の教員室の入口で、ある教師が生徒に、“A先生おりますか”とたずねられ、“A先生、今ここにはいらっしゃらないわよ”と答えている状況によくぶつかることを考えると、この部分をそのままにした者が20%程度とは、信じられないような数字である。また、本来謙譲語の“おる”と、尊敬を表す助動詞“れる”が一緒に用いられ、全体として敬意を表現するように思われて来た“おられましたら”と訂正した者が4例出て来ている。

3-b ただいま、車掌さんが忘れ物をさがしています。しばらくお待ちいたしてください。

わるくない	0名	0%
-------	----	----

おかしい	194名	100%
------	------	------

“車掌さん”の“さん”を消したもの	92.2%
-------------------	-------

この部分はそのままのもの	7.6%
--------------	------

“お待ちいたしてください”に注目し、

“お待ちください”としたもの	93.8%
----------------	-------

この部分はそのままのもの	6.1%
--------------	------

“お……いたす”は“お待ちいたします”とか“お伺いいたします”のように自分側の行為に用いる謙譲表現である。90%以上の生徒はこれを知っており、“待つ”に“お”をつけ、尊敬の補助用言である“くださいにつなげている。

3-c 終点の東京までまいります方、5時32分の到着です。

わるくない	19名	9.7%
-------	-----	------

おかしい	175名	90.2%
------	------	-------

ここでは“まいります方”に注目し、これを“いらっしゃいます”“いらっしゃる”“おいでになる”“おいでの”“いかれます”“お行きになる”“おこしになる”“おこしの”と訂正しているもの、161名、82.9%である。175名のうち161名以外の14名は、他のところを訂正しているので“まいります方”をそのままにしたものは、33名17.0%ということになる。つまり、本来謙譲語の“まいる”を、客の行為につけ、尊敬語、あるいはていねい語としたものが17.0%になるということである。

3-d 停車信号です。しばらくお待ちしてください。

わるくない	21名	10.8%
-------	-----	-------

おかしい	170名	87.6%
------	------	-------

無回答	3名	1.5%
-----	----	------

これは3-bと同じような文例だが、“お待ちして”のところを“お待ちください”または、“お待ちになってください”のどちらかに、おかしいと思ったもの全員が訂正している。“お待ちする”という形は、上に対する尊敬表現でないことを87.6%のものが、認識している。

3-e 次は新宿です。乗りかえのお客様、忘れ物いたしませんようお願いします。

わるくない	22名	11.3%
-------	-----	-------

おかしい	171名	88.1%
------	------	-------

無回答	1名	0.5%
-----	----	------

ここでは、“忘れ物いたしませんよう”に注目したものの161名、82.9%で、他の10名は別のところを訂正している。“いたしませんよう”は“なさいませんよう”“ございせんよう”“しせんよう”“ありませんよう”“……のないよう”と訂正しており、最後の“……のないよう”としたもの7名は(3.6%)“忘れ物”という物品を考え、敬語表現の必要なしとしていることになる。この傾向は、“ございせんよう”“ありませんよう”とも通じており、ていねいな表現はしているが、これらの述語の主語にあたるものは“忘れ物”という品物である。この点を考えると、“忘れ物いたしませんよう”を“忘れ物なさいませんよう”と客の行為とし、尊敬表現

をとったものは、58.2%ということになる。

3-f 線路とホームの間があいております。お降りの方、ご注意ください。

わるくない	38名	19.5%
おかしい	152名	78.3%
無回答	4名	2.0%

“ご注意ください”のところを、“ご注意ください”としたもの137名、70.6%であり、“注意なさってください”7名(3.6%)、“注意して下さい”3名(1.5%)であった。文例の“ご注意して”のものとの形は、“ご注意する”で、“ご……する”、“お……する”という謙譲表現であり、これを“……てください”という尊敬表現と一緒に用いるのは敬意を表す対象が混乱するので、従来使うことがなかった。最近“さっそくご相談してみてください”とか“できるだけ早くお知らせしてください”などと使う例がふえており、3-fの場合も“ご注意ください”という表現を20%近くの者が認めている。

3-g かさをもってまいりましたお客様、お忘れのないようお乗りかえ願います。

わるくない	13名	6.7%
おかしい	180名	92.7%
無回答	1名	0.5%

訂正のしかたに大きく2通りある。まず、“もって”を“おもちのお客様”“おもちになったお客様”としたもの57%、29.3%、“まいりました”をすっかり省いている。そして、そのままお客様という体言に続けている。次に“もって”をそのまま残し、“まいりました”を“いらっしゃいました”“いらっしゃった”“いらした”としたもの113名(58.2%)、同じところを“おいでになった”“おいでの”としたもの4名(2%)、この2つで117名(60.3%)である。敬意を表わすことばは、下に近い部分につける方が、落ちつきが出るということが自然に身につけている結果となった。3-cの“まいりました”とくらべると、3-cでは本動詞として用いられているのに対し、3-gでは“もつ”という動作をあらわす動詞をたすけている補助用言としての用い方であり、後者の場合、“まいりました”をその

まま容認しているものが40%に達している。

(4) 電話の会話から

今回の調査で問題の1つとした“申す”を自然な形で高校生が使うのはどんな場合であろうかと思いめぐらしていると、ある日、次のような光景にぶつかった。

お昼休み、ロビーにある公衆電話のそばにいつものことだが、数人の生徒が群がり、そのうちの一人が電話をかけている。突然、“アラッ、校長先生デスカノ”という大声が聞こえ、そちらをふり返ると、その生徒は仲間の方をむいて、“ヤダーッ”としりあがりの声を出し、大げさに目をむいている。

表情もみえず、またはじめてかける電話では、たとえ相手が目上でなくとも、距離的なへだたりがあり、敬語表現をとることが多い。1回だけの電話でのよくない印象が、いつまでも心を支配することもある。この際、電話をかけるときのマナーを考える意味も加味し、ある用件で電話をする場面を設定して、次の調査を加えた。

—調査文—

あなたのお友だちのA子さんがA学校の新聞部を代表して、B高校の新聞部を訪問することになりました。訪問に先だち、何やら電話で打ち合わせをしています。

A “もしもし、B校でございますが”＜B校の事務の人が応待に出ている＞

A “A校の新聞部のものですけれど、新聞部の方か、顧問の先生に電話をまわしていただけませんか”＜B校の新聞部のものが電話に出る＞

A “もしもし、わたし、A校の新聞部の山川と申します。先日お願いしましたインタビューのこと、顧問の先生のご都合をきいてくださいましたか”
＜顧問の先生は、来週土曜日がよいとの伝言をB校のものから聞いて＞

A “じゃ、先生の申しますように、来週土曜日の午後3時に、3名で参りますので、よろしく願います。そのとき、部員の方が、部室で校正をいたしていらっしゃるところをぜひ見させてください”

＜来訪を待っている旨をきいて＞

A “では、さようなら”

A子さんの電話の応待は、緊張のせいかな、おかしいことばづかいがあります。あなたならどうしますか。できるだけ原文をかえずにおかしいと思うと

ころに線をひいて、なおしてください。(調査文終り)

上の会話文で、こちらが予想もしないところを訂正したものもあり、考えさせられたが、ここでは2つの“申す”についてのみ、とりあげてみる。

4-a “わたし、A校の新聞部の山川と申します”をとりあげると、これを訂正したもの196名中1名。“わたし山川といいます”としている。この生徒は他のところも敬語表現を可能なかぎり省くという一貫した態度をとっていて、注意をひく存在であった。195名は“申します”をそのまま認め、特にふれていない。“申します”は、自分の姓名を名のるときに用いる表現であることに、すでになれているといえよう。

4-b “じゃ先生の申しますように”は164名(83.6%)のものが訂正しており、そのままにしているもの32名(16.2%)である。訂正のしかたは、“おっしゃいますように”“おっしゃるように”が160名(81.6%)で、“いいますように”2名(1.0%)“申されたように”1名(0.5%)“ご都合どおり”1名(0.5%)となり、ほとんどの生徒が“申しますように”を先方の学校の先生の行為をあらわすこととしては不適当であるとしている。この会話は、先生が直接の相手ではなく、話題の中に登場するにすぎないのに、このように多数の生徒が、相手の学校の先生に敬意をあらわそうとする意識があり、また、その方法を知っていることに安堵した。しかし、実際に目撃した場面で耳にした会話とは、ひどくへだたっており、記述して解答してもらった今回の調査と、実用面との差をみとめざるを得ない。この場合、“申しますように”という表現を奇異に感じない生徒が、32名(16.3%)おり、最近よくいわれている“申す”が謙譲語からいいえ語へと変化していることの一端を示している。これが、文例に“申されたように”とあったならば、そのまま、容認する数はもっとふえるであろう。

結 び

今回の調査で、ここにあげた文例を通して主な傾向を列挙すると、次のようになる。

(別表も参照)

(1) 長文や複雑な構造の文では、1つ1つの敬語の本来の働きが失なわれて来ることが多い。(3-g、3-e)。

(2) 謙讓表現であることが、もっとも忘れられているのは、“まいります”であるが、(3-g) “まいる”が補助用言として使われているか、本動詞(主なる述語になっていること)として使われているかによって、判断が変ってくる。

(3) 本動詞としての“まいる”は、まだ十分に謙讓語であると意識されている。

(4) 謙讓表現としての“お……する”“お……いたす”の2つの型に、混乱はあまりない。(3-b、3-d)。この2つでは、“お……いたす”の方に程度の強さを感じている。

(5) “お(ご)+動詞+ください”と“動詞+てください”の2つはくずれている。(3-f)

(6) “申す”は単純な文中では、謙讓語として使われるが(4-a)、やや複雑になると、その意識はうすれてくる。(4-b)

記述式の調査の結果をみてさえ、ことばは生きものだという感を深くする。場面に応じたことばを、たくさんの同類のことばの中から選び出す語感、正しい理解と知識が基であることを思うと、教育をうける途上にある高校生にとって、まだまだ学ぶことが多いといえよう。

注 1. 南博 『社会心理学入門』

— 社会行動の全体系のなかで、人間関係の

基本的なものを機能面からとらえている —

注 2. 「これからの敬語」(国語審議会)

注 3. 中根千枝 『タテ社会の人間関係』

S・I・ハヤカワ 『思想と行動における言語』

注 4. 敬語と敬語意識(国立国語研究所)

注 5. 文例は次のものより採った。

大石初太郎 『正しい敬語』 辻村敏樹 『現代の敬語』

柴田武 『おの付く語、付かない語』

福田恒存他編 『崩れゆく日本語』

岩淵悦太郎監修 『日本語に強くなる本』

朝日新聞 昭和53年2月連載 『ことばの整理学』

(立教女学院講師)

文例番号	文全体をどのように判断したか			おかしいと判断したところと なおし方の方向	実際になおされた表現はどうなっているか
	わるくない	おかしい	無 回 答		
3-a	22 (11.3%)	172 (88.6%)	0 (0%)	おりましたら →尊敬表現に 車掌さん →“さん”を省く(92.2%) お待ちいたして →尊敬表現に	いらっしゃいましたら、いらっしゃたら(151名、77.0%) おられましたら(4名、2.0%)おいでになりましたら(2名、1.0%) お待ちください(182名、93.8%)
3-b	0 (0%)	194 (100%)	0 (0%)	まいります →尊敬表現に	いらっしゃる(108名、55.6%) おいでになる、おいでの(33名、17.0%) 行かれます、行かれる、お行きになる(12名、6.2%) おこしになる、おこしの(8名、4.1%) お待ちください(170名、87.6%)
3-c	19 (9.7%)	175 (90.2%)	0 (0%)	いたしませんよう →丁寧、尊敬表現に	なさいませんよう(113名、58.2%) ございませんよう(26名、13.4%) しませんよう、ありませんよう(9名、4.6%) ないよう(7名、3.6%)
3-d	21 (10.8%)	170 (87.5%)	3 (1.5%)	ご注意して →尊敬表現に	ご注意ください(137名、70.6%) ご注意さってください(7名、3.6%) おもちの、おもちになった(57名、29.3%)
3-e	22 (11.3%)	171 (88.1%)	1 (0.5%)	もって →尊敬表現に	いらっしゃいました、いらっしゃな、いらした(113名、58.2%) おいでになった、おいでの(4名、2.0%) いいす(1名、0.5%)
3-f	38 (19.5%)	152 (78.3%)	4 (2.0%)	まいりました →尊敬表現に	おっしゃいますように、おっしゃるよう(160名、81.6%) 申されたように(1名、0.5%) 申すように(2名、1.0%) ご都合どおり(1名、0.5%)
3-g	13 (6.7%)	180 (92.7%)	1 (0.5%)	申します →丁寧表現に	
4-a	195 (9.9%)	1 (0.5%)	0 (0%)	申しますよう(164)	
4-b	32 (16.2%)	164 (83.6%)	0 (0%)	→丁寧表現に	

(注1) 3-a~3-gまでの被調査者194名、4-a・bは196名